

<単元・題材名等>

教材名「いただきます」

ねらい

「いただきます」のあいさつの意味や生命を支えるもとについて考える活動を通して、自分の命は他の生命との関わりの中で、その恩恵を受け生命力を高めていることを理解し、自分の命を大切にして、感謝をしながら生きていこうという意欲をもつことができる。

#### 主なICTの活用方法

・協働学習支援ツール(バイシンク)で、問いに対する自分の立場を明らかにする。学級児童の考えを電子黒板に映し出し、それを基に、考えを交流する。

#### ICT通じて育成する資質・能力

・バイシンクを活用して、児童が、問いに対する自分の立場を明確にすることができる。  
 ・バイシンクを活用して、自分と他者と考えを比較することで、仲間との交流を通して感じ方や考え方を受け止め、道徳的諸価値について考えを深めることができる。

#### 実践の概要

本教材の内容項目は、「D19 生命の尊さ」である。

本時の導入で、普段自分たちが食べている食事について交流する。様々な食べ物を食べて生活していることを確認した後、展開前段で牛や豚、鶏などの生き物を殺し、その命をいただいていることを示す。その後、生き物の命をいただくことに対して、「かわいそう(赤色のハート)」か「仕方がない(青色のハート)」という2つの立場で、自分は何者なのかをイラストで表す(図1)ようにする。バイシンクを活用し、一人一人の立場を集約し、電子黒板上で確認できるようにすること(図2)で、交流の必然性を生み出していく。多面的・多角的な考えに触れることで、本時の道徳的価値に向けて考えを深めていくことができるようにする。

#### 児童の学びの様子

- 自分たちは生き物の命をいただいて生活していることに対して、周りの考えに流されることなく、「かわいそう(赤色のハート)」か「仕方がない(青色のハート)」のどちらの思いが強いのかを判断することができた。
- バイシンクを活用し、一人一人の考えを瞬時に集約し、電子黒板上で共有したことで、自分とは異なる考えをもっている児童の理由を聞きたいという思いを高めることができ、主体的に交流を行うことができた。その中で、自然と自分の考えと比較しながら本時の道徳的価値に向けて、考えを深めることができた。



図1



図2

#### 指導のポイント

- 机間指導の際、児童が自らの立場を明確にした後、そのように表した理由を問い、自分の口で語らせるようにする。これは、自己の生き方を見つめていくという面において効果的な指導となる。
- 協働学習支援ツールを活用して児童の考えを集約することにより、仲間の考えを聞きたいという思いを高めることができる。こういった姿を逃さず価値付けたり、方向付けたりすることで、多面的・多角的に考える力を高める指導につながっていく。